

第53回全日本大学男子選手権大会

平成30年8月31日(金)～9月3日(月)※雨天により1日順延 石川県小松市/小松市スカイパークこまつ翼



日本体育大(東京) 2年連続30度目の優勝!

日ソ協記録委員 本部 享

霊峰・白山を仰ぐ石川県小松市/小松市スカイパークこまつ翼において開催された標記大会は、小松空港と航空自衛隊小松基地に隣接する広大で恵まれたグラウンドに「全国各地の予選を勝ち抜いた32チーム」が集結し、熱戦を展開した。

小松市は歌舞伎勸進帳の舞台、安宅の関もあり、伝統・文化の継承といった歴史的な重みを感じさせる都市でもある。

大会は初日の午後と2日目の午前中があいにくの雨。大会関係者はもちろん参加選手も自らグラウンド整備に汗を流し、1日延期を余儀なくされたが無事最後まで終了することができた。

熱戦を勝ち上がり、準決勝へ駒を進めたのは、日本体育大(東京)、中京学院大(岐阜)、早稲田大(東京)、国士舘大(東京)の4チーム。

大会前から「2016年の『世界ジュニア選手権・優勝メンバー(7名)』を擁する『王者』日本体育大の『連覇』が濃厚ではないか……」と目されていたが、その予想通り、今回は日本体育大が圧倒的な強さを発揮。日本男子ソフトボール界の「次代のホープ」とも評されるエース・小山玲央を軸に他チ

ームをよせつけず、頂点まで突っ走り、堂々の「連覇」を飾った。

〈準決勝〉

日本体育大

1 0 2 0 1 0 3 7
0 0 0 0 0 0 0 0

中京学院大

(日) ○豊本・岡部・上田

(中) ●星出・實田・田上・前鼻

▽因池田、櫻庭②(日)

〔審〕P大友 1吉江 2松下 3山本

〔記〕水野

先攻の日本体育大は初回、二死三塁の好機を作り、4番・池田の右前適時打で1点を先制。早々と試合のペースを握った日本体育大は、その後も3回表に4番・池田の左越2点本塁打、5回表に1番・櫻庭の中越本塁打、7回表にも1番・櫻庭に2打席連続の右越3点本塁打が飛び出し、着々と加点。「豪快な一発攻勢」でリードを広げ、中京学院大を圧倒した。

一方、東京勢以外で唯一ベスト4に勝ち残った中京学院大は、4回裏に2番・前鼻がチーム初安打を放って出塁。相手守備の乱れで一死・二塁とこの試合唯一の好機を作ったが、次打者のセカンドゴロが日本体育大の堅守の前に4-6-3と軽快にさばかれ、併殺。得

